

オジロワシ・オオワシ保護増殖事業の実施報告

釧路自然環境事務所

1. 平成 27 年度オジロワシ・オオワシ保護増殖事業実施結果

※一部、平成 26 年度未報告案件も記載

(1) 平成 26 年度オジロワシの風力発電施設による衝突回避検討(未報告案件)

- ・平成 25 年度までの環境要因にさらにオジロワシの餌資源となるエゾシカの捕獲データを追加して、GIS によるオジロワシの生息適地モデルの解析を実施。
- ・「平成 24 年度北海道地方における風況変動データ作成事業」(平成 24 年度環境省委託業務)において作成した北海道の風況変動データと、作成したオジロワシ生息適地地図を用いて、風力発電施設の風況からみた立地適地とオジロワシの生息適地の重なりを GIS により解析することで、北海道における潜在的なバードストライク発生危険地域の地図化を試みた。

(2) 海ワシ類越冬個体数調査

本調査は、3 年に 1 度を目途に、オジロワシ・オオワシ合同調査グループが 1980 年代より毎年 2 月下旬に実施している越冬個体数調査に追加する形で冬季間に 5 回(11 月下旬、12 月下旬、1 月下旬、2 月下旬、3 月上旬)実施するもの。これにより越冬期間中の季節的な移動や餌資源の変化についても把握する。

1) 平成 26 年度海ワシ類越冬個体数調査(未報告案件)

- ・海ワシ類の保護を進める上での基礎情報を得るため、北海道全域の海ワシ類の越冬個体数の経年的な変動、餌資源等を把握することを目的として越冬個体数等調査を平成 26 年 11 月 30 日、12 月 21 日、平成 27 年 1 月 18 日、2 月 22 日、3 月 8 日に実施した。

2) 平成 27 年度海ワシ類越冬個体数調査解析等(資料 1)

- ・過去の海ワシ類越冬個体数調査等の結果について、分布要因や越冬期間の個体群動態、経年的な種別個体群動態を解析した。

(3) 平成 27 年度野生復帰個体

過去に収容したオジロワシ 1 羽及びオオワシ 1 羽の野生復帰を実施した。各個体には専門家に協力して GPS ロガーを装着している。

①W L C 収容個体

- ・2015 年 7 月 8 日にオジロワシ(不明ヒナ・2015 年収容・14C0478)を野生復帰

- ・放鳥直後は十勝川沿いにて生存が確認されている。

②円山動物園放鳥個体

- ・2015年12月10日に稚内市でオオワシ1羽（不明幼鳥・2014年収容・15A00406）を野生復帰。

（4）WLCにおける傷病個体の収容・治療・リハビリ等（資料4）

- ・釧路湿原野生生物保護センター（WLC）において、傷病個体を収容し、治療・リハビリ・野生復帰を行うとともに、収容原因の究明に努めた。
- ・オジロワシ13羽（死体7、生体6）オオワシ1羽（生体1羽）を収容。
- ・オジロワシ1羽及びオオワシ1羽を放鳥。オジロワシ1羽を譲渡。
- ・現在、オジロワシ17羽、オオワシ13羽を飼育中（うち、野生復帰困難個体はオジロワシ16羽、オオワシ11羽）

（5）知床国立公園における取組み

1）長期モニタリング調査（資料8）

- ・世界遺産地域の長期モニタリング調査の一環として、平成22年度よりウトロ・羅臼の各自然保護官事務所による越冬個体数調査（越冬期間中月4日程度）を継続。
- ・また、新たに世界遺産地域の長期モニタリング調査の一環として、ウトロ自然保護官事務所によるオジロワシ夏期生息状況調査（5月後半～8月）を実施。

2）羅臼海域における観光船からの海ワシ類への餌付け対策

- ・知床羅臼観光船協議会等によって、将来的に給餌に依存しない海ワシ類の観察をすることを目標として、平成25年度より羅臼海域における海ワシ類への給餌をルール化することに着手。今年度は平成25年度の調査結果及び一部検討委員の意見を反映したルール（案）を作成した。今後、1月の海ワシ餌付け適正化会議にて提案する予定。

（6）普及啓発

- ・釧路湿原野生生物保護センターの展示・バックヤードツアーの開催等による普及啓発。

2. 平成28年度オジロワシ・オオワシ保護増殖事業実施予定

（1）現状把握調査

- ・平成28年度から平成30年度までの間に具体的目標及び実現可能な計画を策定するために必要とされる現状把握のための調査を実施。

(2) WLCにおける傷病個体の収容・治療・リハビリ等

- ・釧路湿原野生生物保護センター（WLC）において、傷病個体を収容し、治療・リハビリ・野生復帰を行うとともに、収容原因の究明に努める。

(3) 知床国立公園における取組み

1) 長期モニタリング調査

- ・世界遺産地域の長期モニタリング調査の一環としてウトロ自然保護官事務所による夏期オジロワシ生息状況調査及びウトロ・羅臼自然保護官事務所による越冬個体数調査を継続。

2) 羅臼海域における観光船からの海ワシ類への餌付け対策

- ・ルールに係るモニタリング体制やルール運用後のレビュー等の担保措置を検討し、平成 28 年度オジロワシ・オオワシ保護増殖検討会にて案を示し、その後ルールを公表予定。

(4) 普及啓発

- ・釧路湿原野生生物保護センターの展示・バックヤードツアーの開催等による普及啓発。